

特別活動

○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」につながる資質・能力の育成を目指す。

→ 学校や学級の課題を見いだし、よりよく解決するため、話し合って合意形成し実践することや、主体的に組織をつくり、役割分担して協力し合うことの重要性を明確化する。

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待って	語らせつないで	認め励ます
<p>■子どもたち自身の課題にすること</p> <p>学校や学級の課題を見いだすときに、教師が課題を設定したり誘導したりすると、自分事にならず「やらされた」合意形成になることも。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの成果と課題をもとに、子どもたちなりの課題意識を引き出す。 恒例行事について、その行事の必要性を子ども自身に語らせる。 	<p>■話し合う目的やゴールの共有</p> <p>「何を解決するための話合いか（目的）」「どうなれば解決と言えるか（ゴール）」を全員で共有できていること。ゴールを共有できているからこそ、そこを足場にして異なる他者と合意形成できる。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題が解決された状態を、具体化したり、数値化したりするなどしてゴールイメージを共通理解する。 	<p>■キャリア・パスポートの活用で具体的に</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆一人一人のよさや可能性を積極的に認めること ◆資質・能力の成長を、各個人の活動状況をもとに評価していくこと <p>これらを見取るツールとしてのキャリア・パスポート</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りと見直しをつなげて表現させる。 結果より過程（難しかったこと等）を表現させる。

「PDCAサイクルを子どもたちが納得しながら回していけるように支援をすること」が、子どもたちの自治的・主体的な活動を充実させる中で教師の役割です。



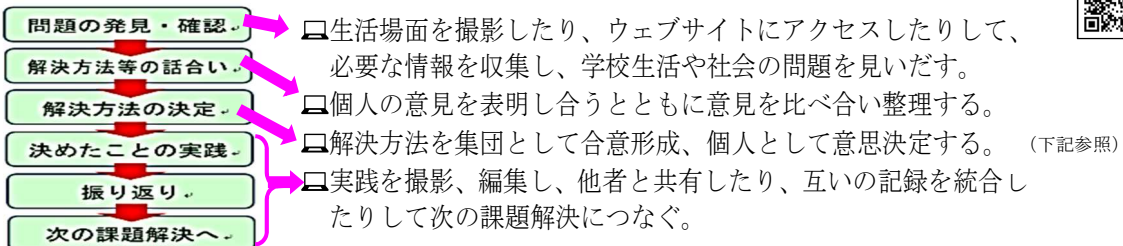
ICTの活用について

参考：文部科学省 HP「StuDX Style」より

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00016.html



1 学習過程（学級活動）とICT活用の関係について



2 学級活動における活用例 ※（ ）は、ICT端末の主な機能

○議題の選定や出された意見の集約、分類・整理の工夫

- ・議題を選定する際、ICT端末で出された議題案を分類・整理し、適切に選定できるようにする。（思考ツール）
- ・話し合いの場面では、出された意見を分類・整理して、児童生徒の思考を整理し、多様な意見のよさを生かして合意形成を図ることができるようにする。（付箋）

○アンケートの集計、提示や話し合いを通じた意思決定に生かす工夫

- ・事前のアンケート調査をICT端末を活用して実施し、集計結果をグラフ等にまとめて視覚的に提示することで課題意識を高める。（アンケート）
- ・学級全体の考えを集約し、電子黒板に提示して話し合い、友達のことを参考にしながら、一人一人がよりよく意思決定することができるようにする。（電子黒板）